

### 1 研究主題

心をときめかせながら、生き生きと遊ぶ子どもを育てる  
 ～子どもたちの豊かな環境づくりのための放送・メディア教育を考える～

### 2 研究の解説

- (1) 研究の視点
  - ① 育てたい幼児像を明確にし、その環境づくりに重点を置く。
  - ② 放送・メディア教育は、遊びの環境の一つとして捉えていく。
  - ③ 放送・メディア教育を取り入れる付加価値を考える。
- (2) 研究の内容
  - ① 子どもの遊びの質を高めたり、遊びを広げたりするための放送・メディア教育を考える。
  - ② 園生活の中では得難い体験を補うために、放送・メディアという間接的な経験をどのように取り入れていくか、その方法を探る。
  - ③ 自分たちの遊びや生活を、より有効的に振り返るためのメディアの活用を探る。
  - ④ メディアを利用した職員研修、保護者・地域啓発の在り方考える。
- (3) 研究の方法
  - ① 園生活の中で常に幼児理解に努め、幼児が心をときめかせている場面を丁寧に捉えていく中で、さらに豊かな経験につなげていくためのかわりや援助を考え、放送・メディアを活用していく。
  - ② 写真や実践記録（動画等）を保育カンファレンスに積極的に取り入れていき、また保育活動への放送・メディアの利用の有無によってその違いを検証し、より有効な取り入れ方を見出していく。
  - ③ 職員研修や保護者・地域啓発にも、積極的に映像等を活用していく。

### 3 研究の構想



- ### 4 研究を振り返って
- ◎保育活動の中で ★職員研修を通して ☆保護者・地域への啓発を通して
  - ◎情報に振り回されず、自分で必要な情報をキャッチできる主体性を育てていくことが重要である。
  - ◎映像のもつ力は大きい。その活用方法こそがポイントとなる。メディア活用の根底には保育者の幼児理解が何より大切である。
  - ★映像の活用は保育者の保育観、幼児観が明確に映し出され、保育カンファレンスにおいて核心に深く迫ることができた。明確になった自分の課題と向き合い乗り越えていくことでステップアップにつながっていく。
  - ★新たな教材研究へとつながった。保育者の懐が深くなり、保育の幅も広がった。
  - ☆保護者を対象とする『自園作成 DVD 視聴会』への取り組みは活字離れの世代には想像以上に効果があった。映像で『見える化』し、どの保護者にも同一情報として提供したことで、分かりやすく理解につながった。